



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和8年度

学校の窓 10月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <https://www.ita.ed.jp/1310270>

「全国学力・学習状況調査」について

主幹教諭 弘井 一樹

朝夕の風に秋の深まりを感じる季節となりました。2学期が始まって約1か月、子どもたちは日々の学習や学校生活に元気に取り組んでいます。今週末には、いよいよ「秋の板四スポーツフェスティバル」を迎えます。これまでの練習では、仲間と協力することや、自分の役割に責任をもって取り組むことの大切さを学んできました。本番では、これまでの努力の成果を発揮するとともに、「自分もみんなの役に立てた」という達成感を味わってほしいと思います。こうした経験を一人一人の自己有用感につなげ、これからの学校生活への自信としていけるよう、教職員一同、支えてまいります。

さて、新聞報道等でもご存じのことと思いますが、4月に実施された令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果が7月中旬に公表されました。本校の結果は、次のとおりです。

1 令和8年度 全国学力・学習状況調査 本校の概況

国語・算数の両教科において、本校は東京都及び全国の平均正答率を上回りました。これまでの学習の積み重ねが一定の成果として表れていることを、うれしく受け止めています。

国語科・算数科の平均正答率(本校・都・全国)

教科	本校	東京都(公立)	全国(公立)
国語	70.0%	65.0%	60.9%
算数	65.0%	63.0%	56.4%

一方で、調査結果を詳しく見ていくと、更に伸ばしていきたいところや、今後の指導に生かしていくべき課題も見えてきました。今回の結果を単に「平均を上回った」という数字だけで捉えるのではなく、子どもたちの学びをよりよくするための大切な資料として活用していきたいと考えています。

2 国語科から見てきたこと

国語科					
観点・領域	知識・技能		思考・判断・表現		
	言葉の特徴・使い方等	情報の扱い方	話す・聞く	書く	読む
本校	72.2	61.1	78.2	58.3	72.9
東京都	70.4	56.7	70.0	50.4	68.8
全国	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9

国語科では、自分の考えをもち、それを言葉にして表現する力に、本校の子どもたちのよさが表れました。文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く記述式の問題では、本校の正答率が84.7%となり、東京都平均の75.4%を大きく上回りました。また、無解答率も9.7%で、東京都平均の17.8%を下回っています。「自分はこう考える」と自分の考えをもち、それを何とか言葉にして伝えようとする姿が育っていることがうかがえます。これまで本校が大切にしてきた、友達と考えを伝え合う学習の成果の一つと捉えています。

一方で、漢字を正確に書くことについては課題が見られました。「不思議」という漢字を書く問題の正答率は44.4%でした。文字の一部を書き忘れたり、とめ・はね・はらいなどが不正確だったりする誤答も見られました。これは、漢字を覚えているかどうかだけでなく、「書いたあとに自分で確かめる」という習慣にも関係していると考えています。今後は、漢字の構成や字形を意識して丁寧に書くことに加え、自分の書いたものを見直すことを大切にしていきます。

3 算数科から見てきたこと

算数								
領域	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	観点	知識・技能	思考・判断・表現
本校	71.4	63.9	83.3	<u>47.7</u>	57.3	本校	68.8	54.2
東京都	68.0	63.4	82.9	49.9	53.9	東京都	67.1	51.1
全国	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6	全国	60.1	45.4

算数科は、基本的な知識や技能については一定の力が身に付いている一方、数量の関係を捉えたり、自分の考えを筋道立てて説明したりすることに課題が見られました。

特に「変化と関係」の領域では、本校の正答率が47.7%となり、東京都平均の49.9%を下回りました。また、分数の大小について、その理由を説明する問題では正答率が38.9%でした。

「答えは分かるけれど、なぜそうなるのかを説明することは難しい」という子どもたちの姿が見えてきます。そこで、今後の算数科の学習では、関係図やテープ図、数直線などを積極的に活用し、「まず関係を図に表してみる」「図を見ながら友達に説明してみる」といった学習を大切にしていきます。

答えを求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのように考えたのか」を説明できることを目指していきます。こうした力は、算数科だけでなく、様々な教科で自分の考えを伝える際にも大切な力となります。

4 児童質問紙から見てきたこと

今回の調査では、学習面だけでなく、子どもたちの生活や学習習慣についても振り返ることができました。

特に、平日にスマートフォン等でSNSや動画視聴などを4時間以上行っている児童の割合は31.8%で、東京都平均の18.2%を上回っています。スマートフォンやタブレットなどのICT機器は、これからの社会を生きる子どもたちにとって必要な道具です。大切なのは、使用そのものを否定するのではなく、「どのくらいの時間、どのように使うのか」を自分で考え、調整する力を身に付けることです。学校でも、時間の使い方を振り返り、よりよい生活習慣を身に付ける力を育てていきます。ご家庭でも、十分な睡眠や家庭学習、読書、家族との会話などの時間を大切にいただければと思います。家庭学習は「学年×10分」を一つの目安としてご協力をお願いいたします。

また、「いじめはいかなる理由があってもいけないと思う」という問いに対して、否定的な回答をした児童が本校では7.5%おり、全国平均の2.9%と比べて高い割合でした。友達に対して嫌な気持ちになったり、腹を立てたりすることは誰にでもあります。しかし、どのような理由があっても相手を傷つける行動は許されません。学校では、相手の気持ちを考えること、困ったときには一人で抱え込まず相談することを繰り返し伝えていきます。ご家庭でも、「自分がされたらどう感じるだろう」といった対話を大切にいただければと思います。

子どもたちの健やかな成長には、学校とご家庭が思いを一つにし、寄り添い支えることが大きな力となります。これからも、一人一人の成長や頑張りをともに喜び、温かく見守っていただければと思います。